



ジンバブエの風

発行者のジンバブエ野球会は、1998年4月にジンバブエ初の野球場「ハラレドリームパーク」を作ったジンバブエFOD委員会を引き継ぎ、アフリカの野球振興と野球交流をゆったりと支援する会です。

東京オリンピックに向けて開催されたアフリカ予選は、南アが優勝し、欧州アフリカ大会に進みました。ジンバブエは2次予選3位で、東京オリンピック出場の夢は叶いませんでした。予選と事前合宿に対して、皆様から温かい特別募金を頂戴しました。ここに心からの感謝を申し上げます。会計報告は事務局だよりに掲載しておりますので、ご一覧下さい。

東京オリンピック予選を終えて

おかやま山陽高校野球部監督

東京オリンピック予選ジンバブエ監督 堤 尚彦

2015年春に突然のモーリス会長の来日。そこから止まっていた針が動き出しました。私自身、もうジンバブエには行くことがないだろうと思っていましたが…。1996年ごろ、我々の活動は、野球隊員の増加、体育隊員の協力もありドンドン拡大し、全国大会は小学校から高校まで開催され順調に普及は進んでいたと思います。ただ、我々にはどこまでやれば普及が完了するのかという見えないゴールがありました。これは私が勝手に言い出したことですが、

- 野球レベルの強さを縦軸とすると目標は2008年に誘致しようとしていた大阪オリンピック。
- 小学校から高校までの全国大会開催（クリア）
- 各年代別の代表チームの編成（クリア）
- 現地人の野球協会運営・審判・指導者の育成（一部）
- 教育大学での履修科目に野球を入れる（クリア）
- 現地産野球道具の開発・販売・流通（一部）

などなど、沢山ありました。そういったことをイメージする光景は、週末に空き地で親子がキャッチボールする光景が車窓から見られるというようなものでした。

それが後任隊員にも引き継がれていったらなあと思いつつ、帰国しました。その後の経済不況などで普及計画は頓挫。気持ちは、日本での日常に奪われていきました。その後のガーナからの帰国後・・・あれから15年。黒人居住区で育ったモーリスが、大学の先生になり、野球協会長になり、目の前に現れました。東京オリンピックを目指すという彼の話を聞くと、自然と何かしたいと思いました。高校野球の監督として、何かできることと考えると、本校野球部員と練習させるのが一番上達するだろうとは思いましたが、ただの妄想でお金の工面もできず、すぐに実行できませんでした。本校の選手達に「地方大会2・3回戦の監督が東京五輪目指すのが、おもしろいか？甲子園監督が目指すのが、おもしろいか？」と聞く

と後者でしたので「だったら、連れて行ってくれと」頼みました。その時の1年生が夏の甲子園に連れて行ってくれました。すると、事態は急変します。インターネットや雑誌・新聞で何度も取り上げられ、校長先生からも支援すると言っていただけました。すると台湾でプロ野球選手になった教え子 知念の取材でテレビ東京の岡田さんとも知り合いました。あれよあれよという間に予算もそれに見合うマスコミの露出も準備できました。既成事実で固めてから、選拔出場も決まり、その直後 高野連からも承認も有難く頂くことができ、堂々と兼任監督ができるようになりました。

頭の中では2015年から毎年3人ずつ、夏休みに受け入れれば2019年までに約1チームの15人に日本野球を仕込めると思っていたのですが、予算のこと・自チームのことがありますので、2018年の夏によく実現しました。直前に3人だけなんて焼け石に水とも思った瞬間もありましたが、やれることをやらないと後悔すると思い実行しました。最終的には、3月にも3人呼んで練習しました。2018年の12月には2週間にわたり、ジンバブエに行かせていただき、合宿と選手選考をしました。また急遽予選が4月になれば、新年度始まったばかりにも拘らず3週間もジンバブエに行かせて頂いた学校には感謝しかありません。その3週間の間には、春の県大会もあり、選手にも迷惑をかけました（いないほうが、嬉しかったかも知れませんが…） ジンバブエ選手が日本滞在中は、選手の家ホームステイさせて頂き、食事から何から何まで面倒を見ていただきました。選手も貴重な経験ができたとはいえ、保護者の方々には感謝しかありません。

そんな経緯を経てのオリンピック予選参加。資金不足で前職の取引先から、大学の友人から幼馴染から、親戚から募金を頂き、4度の合宿と大会参加が可能になりました。現地では、現隊員の谷山君のサポートを頂き、非常に助かりました。日本の皆さんの募金のお蔭で、南アフリカでは非常に安全で綺麗な、そして温かいお湯の出るゲストハウスに宿泊できました。大会の運営方法や参加国も日に日に変わり、対応力が求められるザ・アフリカでした。ケニアやナイジェリアが資金難で参加辞退するなど、対戦カードすら前日に変更になる有様。参加したのは、ブルキナファソ・ウガンダ・ジンバブエの日本人サポート国 対 南アフリカでした。ルール会議では、ブルキナファソの役員がフランス語しかわからず、四苦八苦しているのを南アフリカのコーチが翻訳アプリと絵コンテで対応している光景は、敵味方を越えた、国際協力の大切さを実感しました。

大会の内容は、6月のテレビ東京系列スポーツウォッチャーをご覧頂いているでしょうから割愛します。まだの方は、ユーチューブで検索してください。（無いかもしれませんが…）大会を通じて感じたのは、ジンバブエは弱すぎるということで、やはり小学生から継続していなければ、野球選手らしい動きはできないということです。あとは、基礎体力・筋力の差です。体に力がなければ、パフォーマンスは向上しません。背が小さくても、体は強くないと勝負になりません。

結局、これからのジンバブエに必要なことは、文頭に書いた

- 高いレベルの中期目標
- 国内の草の根からの普及
- それぞれの年代の代表チームとそれを編成するための大会
- 上記を実施するための野球場
- 現地人の健全な協会・正しい指導者と審判に尽きます。

大会終了時に、引退するラブジョイが全選手にステーキをご馳走してくれた時に、モーリス会長が「帰国後、選手それぞれが地元の小学校1校に野球を教えに行こう、チームをつくらう、そして大会をやろう！それが10年後のジンバブエ野球のためだ！」と言っている

した。その通りだと思います。

事の大小ではなく、やろうと思うか・思わないか。そして、やるか・やらないか だけだと思います。私も高校野球の監督として、こういったことをドンドン発信していくために甲子園に出たいですし、こういった活動をやってくれる人材を創っていきたいと思います。東京オリンピックに来れず、寄付して下さった多くの方々の期待に応えられなかったことが心残りですが、お許しください。これからも、世界の野球の普及のために命を使っていきます。

感謝



この大会を最後に引退するラブジョイ



教え子のモーガン（シドニー五輪予選のガリガリの投手）

Zimbabwe Senior Man National Team Camp Report

Coach Americo Juma (アメリカ)

2月8日～10日、ブラワヨのハミルトン高校において2019ナショナルチームキャンプを開催した。選手25名、審判2名、スコアラー2名、テクニカルスタッフ3名が参加。全員、ハミルトン高校まで歩いて通える距離のMcmanara(マクマナラ)ゲストロッジに2泊した。3食付でロッジ従業員の対応も良く快適に過ごせた。静かな地域にあるこのようなゲストハウスに滞在できることは、我々にとって名誉なことと感じた。ハミルトン高校のグラウンドも大変良い状態で、天候にも恵まれ、全ての練習が予定通り行われた。2019年ナショナルチーム主将にシェパード、副主将にThembani Moyoを選んだ。全選手とオフィシャルはジンバブエ野球協会モーリス会長からバス運賃を支給された。

練習計画ではフットワーク、ゴロへの対処、柔らかいハンドワーク、バッティングサインの正確な理解等、試合中の基本動作に焦点を合わせた。2日間に7インニングの練習試合を2試合実施。試合に関する知識、試合に向かう態度は徐々に改良されてきているが、個々のプ

レイが未だチームプレイに高められていないものもあり、エネルギーレベルとパフォーマンスの一貫性が不足していた。バッティングサイン、バッテリー間のピックオフサイン、バンクト守備、ダブルスチール防御に関し、技術面で更に練習する必要があると全員で確認した。ほとんどの選手たちがそのような場面でまだ困惑する。大きな怪我や病気も無く、無事キャンプを終えられたことに感謝している。

チーム規律はキャンプを通じて守られた。キャンプ開始の2月8日午後2時に遅刻したタピュワが、規律に違反したということで、テクニカルスタッフにより帰宅を命じられた他は。タピュワは正当な理由なく2時間半の遅刻をした。常に時間厳守を全選手に強調しているため、今回の彼の遅刻は許されなかった。

3月1日～3日に第2次キャンプ、4月13日～18日に最後のキャンプを予定している。可能であれば、4月18日夕方にジンバブエを出発し、4月20日～21日南アのクラブチームとの前哨戦を考えている。

4月23日～26日にはヨハネスブルグ Boksburg Cardinals Baseball Grounds で開催されるアフリカ一次予選（注：直前に棄権があり順位決定戦に変更）に臨む予定である。

全てのキャンプにおいて我々選手たちの生活・活動を支援してくれているジンバブエ野球協会（ZBA）並びにモーリス・バンダ氏に感謝する。モーリス氏はジンバブエ野球を発展させるため、時間・労力を無償で提供してくれている。これらの活動を可能にくださっている日本のジンバブエ野球会（Zykai）、アメリカのブラッチャーコーチ、堤氏らをはじめ、見えないところから応援してくれているジンバブエ人支援者も忘れてはならない。この方たちにも改めて感謝致します。皆様のご支援のおかげで、野球少年たちの人生が変わっていることに関し、個人的にも心から御礼申し上げます。ジンバブエ野球に関わる家族の一員として、どのように私たちの感謝の気持ちをお伝えすればいいか、適切な言葉を見つけられませんが、皆様に神のご加護がありますように。

2020年東京オリンピック・アフリカ予選報告

（2019年4月16日～5月7日）

ジンバブエ代表チーム 助監督 ジョン・マジロウ

直前最終合宿：4月16日～23日 ブラワヨ ハミルトン高校にて

選手25名、コーチ陣4名（アメリカ、ジョン、ワシントン、谷山直規）

南ア在住のラブジョイ、ネルソン・マピカ選手は不参加。

4月17日 堤尚彦監督が到着。4月22日 TV東京岡田ディレクターが到着。

充実した、慌ただしい、直前合宿を終え、最終派遣メンバーの発表。4人が脱落した。

モーリス会長より、派遣チームへの激励と、残念ながら選抜されなかった4人の選手たちへの感謝と今後も野球への愛を持ち続けるようとの激励が述べられた。

南アへの派遣団：4月24日選手21名、初の帯同チームドクターMr. L.Muguni、助監督ジョン、審判員 Mathew Banda、スコアラーMiss Jolene Ncube、監督 堤尚彦、コーチ アメリカ、ワシントン、谷山直規、団長モーリス、合計30名。ブラワヨ～ヨハネスブルグ間を走る長距離バスにて移動、無事25日にヨハネスブルグへ到着。

予選前の調整試合：4月27日 南ア クラブチームとダブルヘッダー試合

① 対 Giants Baseball Club 4-3 ジンバブエの勝ち

② 対 Cardinals Baseball Club 6-0 //

4月28日 休息日

南ゾーン予選前会議：4月28日 17:00～18:10 レソトが辞退。南アとの順位決定戦に変更。

4月29日 南ア 対 ジンバブエ 12:30 試合開始 7回制 と決まる。

南ゾーン結果：南ア 19対0 ジンバブエ 5回コールドにて敗戦。

得点経過：1回、2回で4点、3回に崩れ11点失う、4回に4失点。5回表に得点機を失う。
ジンバブエチームは南ゾーン2位で、2次予選へ。

アフリカ2次予選前会議：4月30日 17:45～19:00 ケニア、ナイジェリアが不参加となり、最終的に4か国(南ア、ジンバブエ、ウガンダ、ブルキナファソ)の総当たり予選リーグに変更。

それから 準決勝 (1位 対 4位、2位 対 3位)、その次に 決勝と3、4位決定戦。

9回制、コールドゲーム成立は5回で15点差、7回で10点差の場合。

4か国での総当たり戦：2007年以降、国際試合に出場していなかったジンバブエは、勝つ可能性が低いチームとして参加した。この場面まで導いてくれたモーリス団長にチーム一同で賛辞を捧げた。

<予選リーグ戦>

5月1日	ブルキナファソ	5-11	ジンバブエ
	ウガンダ	0-18	南ア
5月2日	ジンバブエ	0-15	ウガンダ
	南ア	18-3	ブルキナファソ
5月3日	南ア	16-1	ジンバブエ
	ウガンダ	21-15	ブルキナファソ

(結果)

1位 南ア	3勝 0敗	2位 ウガンダ	2勝 1敗
3位 ジンバブエ	1勝 2敗	4位 ブルキナファソ	0勝 3敗

<準決勝>

5月4日	南ア	16-5	ブルキナファソ
	ウガンダ	21-5	ジンバブエ

<3・4位決定戦>

5月5日 ジンバブエ 15-14 ブルキナファソ

試合時間が4時間を越える延長戦となり、タイブレーク方式が採用された11回表ブルキナファソが1点を取った後、後攻のジンバブエが1点を取り同点、さらに次打者シェパードを敬遠しようとした際、投手が投球モーションに入る前に、キャッチャーがキャッチャーズ・ボックスを出てしまいボークとなり、3塁ランナーがホームイン。劇的な幕切れとなった。この試合でシェパードは3本のホームランを記録し、タシंगाがクローザーとしてマウンドに上がり試合を締めくくった。ジンバブエは銅メダルに輝いた。

<決勝>

5月5日 南ア 28-0 ウガンダ (5回コールド)

この結果、南アフリカチームがアフリカ代表として、6月にイタリアで行われるヨーロッパ・アフリカ予選に進んだ。

オフィシャル：

審判員 Mathew Banda とスコアラー Miss Jolene Ncube が国際試合にデビューした。

Mathew は、南ア対ブルキナファソ戦で主審を務めた。Jolene もすべての試合でスコアを記録した。

用具、ユニフォーム：

ZETT 社から、赤・白ユニフォーム、帽子、ベルト、アンダーシャツ、ソックス、ストッキング、グローブ、木製バット、キャッチャー装備等々が堤監督を通し寄贈された。さら

に濃緑のブレザーが各選手に授与された。

資金援助：

ジンバブエ野球会と日本の友人たちから、多大なる資金援助と応援をいただいた。長年にわたる支援に、心より感謝申し上げます。アメリカ合衆国のブラッチャーコーチ、Jet Baseball にも感謝。

医療：

スポーツドクターが帯同する遠征という初の機会に恵まれた。3週間、選手たちの身体のケアを担い、ケガ等への対応もあり、大変心強く感じた。Luxton Mawanga が試合中、頭部にデッドボールを受けた際、命にもかかわるような状況であったが、ドクターの適切な処置があり、救急車搬送された後、現在は歩けるようになっている。

結論：大会後の反省、今後への展望。

1. 小学校にて 10 歳以下の選手を見つけ、野球のための運動能力を高め、基本動作を教える。U13, U15, U18, U20, シニアチームという連続した活動が必要である。指導者も正確な知識や適切な指導力を獲得できるよう訓練を受けるべき。
2. ジンバブエには球速 120km を越える投手がいないため、速いボールに対する対応力を磨くため、ピッチングマシーンがほしい。
3. 今回のナショナルチームが持つ高い能力、結束力、互いを理解する力を、今後のチームに受け継いで行ってもらいたい。

2 年間を終えて

2017-1 青年海外協力隊ジンバブエ野球隊員 谷山直規

あっという間の 2 年間が終わった。

ここジンバブエで 2 年間活動できて本当に良かったと思う。

2 年間を通して約 900 名の子どもから大人に野球を教えることができました。それをジンバブエの人口 (17000000) で割ると 0.000053 であり限りなくゼロに近い。しかしながら、ある学校の先生は、彼らは野球のためならなんでもやるよ。それぐらい野球が好きだ。と言ってくれた。時には、学校を休んで野球に来たこともあった。それぐらい野球を好きになってくれた、これからも野球を続けて欲しいと思う。

さて、「野球の普及」を 2 年間の目標として活動に取り組んで来ました。しかし、どこへ行ってもサッカー。普及とは程遠い結果となりましたが、たくさんの種をまくことはできました。そして、野球を通してたくさんの子供たちと出会うことができ、たくさんのことを教え、教わったこと。それは私の大きな財産となりました。何かの縁でジンバブエに来て、ブラワヨという街で野球を教え、金属の棒を持った人が意味もわからないスポーツを教える。今やそれが野球とわかるようになり、野球が日常になってきた。私自身、ようやくジンバブエについてわかってきた所で試合終了。ここで日本へ帰るのかと思うとまだ居たいと思う気持ちもありますが、彼らは彼ら自身で野球をすることができますと思います。

他人の常識が自分の常識ではないこと、日本とは違う他の環境にも知らず知らずのうちに慣れて平常化していったという経験。たくさんの経験をジンバブエですることができました。この経験を忘れることなく次のステージに向かっていければと思います。

これからも、野球普及を目指して活動できればなと思います。まだまだ、これから。試合終了ではなく延長戦へ突入です。

最後にジンバブエ野球会の皆さまには、2020 東京オリンピック南アフリカ予選をはじめたくさんの支援をしていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。これから私もジンバブエ野球会の一員としてジンバブエ野球の発展そして、世界で野球がもっともっとメジャーなスポーツになるように努めてまいりたいと思います。

2年間ありがとうございました。



(記:伊藤)

4月、タンザニア代表監督の岩崎広貴氏から、アフリカ東地区1次予選2試合の下記報告をメールで頂きました。

- 「4月5日は、12対14でケニアに負けました。チームの若さがでました。緊張して、エラー続出。7回終了試合の5回裏2対12コールド負け寸前から逆襲したのですが、遅かりでした。やはり、守りが大切だということを再認識させられた試合でした。今日はウガンダ戦です。日本の社会人野球並のチームです。」
- 「4月6日、ウガンダ戦1対23負けです。ただ、ウガンダの弱点は変わっていません。インコースファールで、高目空振り。真ん中低目要注意。ゴロ、たった5本。7本ホームランで20点取られましたが、球場が狭いため、本来外野フライがホームランになったのが5本です。内野は下手です。もし、ジンバブエと試合があれば、強いゴロを多く打った方が勝つと思います。これは、アフリカのどのチームにもあてはまると思います。アフリカのチームは内野が総体的に下手です。ジンバブエの指導者にお伝えください。」

タンザニアあとわずか

2016—4次隊シニアボランティア 野球隊員 岩崎広貴



ジンバブエ野球会の皆様、お世話になってます。

自分のタンザニアにおいての活動を紹介します。

タンザニアナショナルチームの監督として、タンザニア各地を巡回指導・普及活動して回ることと、ナショナルチーム選手候補をピックアップして、チームを創設し、強化していく

ことが主な活動です。前ページの写真は各地のセコンダリースクール（14歳から17歳までの学校）の教師と生徒を対象とした野球教室・練習風景です。タンザニア全土（15地域ほど）を定期的に巡回し、このような活動を行っています。この2年でチーム・選手数が3倍以上になりました。（野球7チームだったのが今では野球20チーム強・ソフトボール（女子）8チーム・その他小学生多数、特に女子選手が激増してます。）指導要望はいたるところからあるのですが、野球用具が底をついたので、新規開拓が出来ないのが残念です。



左上の写真は、成長したナショナルチームの選手達がダルエスサラーム市内及び近郊のチームの選手を指導している風景です。（ナショナルチームの選手といっても学校を卒業すると野球を続けていける社会人野球などの環境が無いので、全員17歳前後の選手ばかりです。）教え方が、自分にソックリなので笑えます。

右上の写真は、JICAと大学連携の活動として大学生の短期ボランティア（福岡教育大学野球部員7・8名）とダルエスサラーム市内及び近郊のプライマリースクール（日本における小学校）や、セコンダリースクールを約1か月間にわたって巡回指導・普及活動している風景です。1か月で延べ40校（各学校ではご覧のように100人以上、多い所では200人以上のギャラリーが集まったので普及活動としては大成功でした。）



左上の写真は去年12月に開催された、第6回タンザニア甲子園です。第5回が野球のみ9チームだったのが、今回は野球13チーム・ソフトボール（女子）6チームとほぼ倍増しました。しかしながら、旅費が工面つかないため参加できないチームが数チームあったのが残念です。

右上の写真は今年4月に開催された東京オリンピック予選東アフリカ大会の風景です。残念ながら、ケニヤに12対14で負けましたが、平均年齢17歳のチームが社会人チーム相手に良く戦ったと思います。そのケニヤも旅費が無いので、南アフリカに行けなかったことを聞くと、どこも同じ悩みが有るんだと痛感します。

最後になりましたが、今回、ジンバブエ野球会の方から援助があったことに、非常に感謝しています。本当に助かりました。

ジンバブエを思う

元青年海外協力隊 初代ジンバブエ野球隊員 村井洋介

井上尚弥選手、大谷翔平選手、渡辺雄大選手、ハキーム サニブラウン選手、久保建英選手、八村塁選手...世界が紛れもなくトップクラスと認める凄い選手が日本からスポーツ界にゾクゾクと現れている。

勿論、これまでも世界の第一線で活躍する日本人選手や国際大会、オリンピックのメダリストは各スポーツにいたが、最近現れる選手はこれまでの一流日本人アスリートとは何かちょっと違うアスリートである。

まず日本での実績云々というステップを踏まず、いきなり世界のトップクラスで活躍する選手達であり、それもつい最近まで日本人には無理だと言われていたスポーツでも...である。

ジンバブエのスポーツ選手はどうだろうか？

ジンバブエにもオリンピックの金メダリストである **Evan Stewart**、**Kirsty Coventry** や、世界で活躍した **Nick Price**、**Peter Ndlovu** などのスポーツ選手達はいたが、それらの選手を凌ぐ若いアスリートの話は聞こえてこない。

やはりそれは 90 年代後半からはじまった経済の破綻や、国際社会からの孤立がジンバブエのスポーツという分野に大きく悪影響を及ぼしたように思う。

私がジンバブエに赴任した 1992 年はまだ経済崩壊は見えておらず、逆に人々の生活は華やかになっていく方向に向かっていたように思えた。

スポーツも白人が主体ではあったが、市内の至る所に立派なスポーツクラブがあり、ラグビー、クリケットは頻繁に国際試合が行われ、黒人スポーツであるサッカーもやはり結構な頻度で国際試合が行われていた。そして 1995 年にはジンバブエがオールアフリカンゲームズのホスト国も務めた。

その当時のジンバブエは、スポーツが発展していくのに十分な環境が整いつつあったと思うし、実際に発展していく過程であった。しかし、残念ながらゆっくりと、そして確実にその希望は薄れていくことになる。なにより、90 年代後半にはスポーツをしている人をあまり見かけなくなったような気がする。

国の環境が悪化すると、白人以外にも各方面の優秀な人材が国を出て行ってしまい、様々な分野の環境は悪化の一途を辿った。勿論、スポーツも例外ではなく...。そして人の心も貧しくなってしまった。

これが、未だにジンバブエからは「大谷翔平」が現れない一つの大きな要因である。誰もがアクセス可能なインターネットという画期的な情報ツールが存在しているのに...

しかし、近い将来にジンバブエから世界が認めるアスリートが現れることを期待して止まない。そのアスリートの存在はジンバブエが以前のような人々の心が豊かな国に戻る希望となってくれる。

「まさか、ジンバブエから **MLB**...」だってあるかもしれない。

ジンバブエ野球会の活動がそのまさかのキッカケになるかもしれない。

ジンバブエで野球をしているアスリートの中に野球以外で世界に通用する人材がいるかもしれない。

ジンバブエ野球会が長く続くことに敬意を表し。

野球を教育のツールに

日系社会青年ボランティア ブラジル 高江直哉



ブラジルのサルバドール市にて野球指導をしております、日系社会青年ボランティアの高江直哉と申します。早いものでブラジルでの生活も残り7ヶ月となりました。2019年のこの半年を振り返ってみると、野球のもつ教育の可能性の大きさを改めて感じられました。昨年サンパウロで行われた大会で、私の活動の中心である非日系の貧しい子どもたちを中心としたチームが優勝したこともあり、多方面から注目を浴びるようになった一方で、チームの実力は少し足踏みしているように感じています。個人の能力は数値的には上がっているのですが、昨年一年間ほどの飛躍的な伸びはなく、チーム全体の強さにもつながっていないように見えます。今年の3月の大会では、大人のチーム相手にも善戦しましたが、あと一步のところまで負けてしまい、優勝を逃してしまいました。彼らは野球を始めて間もなく2年が経とうとしています。昨年一年で野球の大体の動きや大会の雰囲気を知り、年末初めて子どもたちだけで挑んだ大会で優勝し、彼らの野球のスキルはうなぎのぼりに上昇していきました。初陣に高ぶる気持ちもうまく後押しし、優勝にまでこぎつけましたが、野球の難しさをまだ知らずに来たという印象も感じていました。野球はチームスポーツでありながら個人スポーツのような要素もあわせ持つ、そこにおもしろさと難しさがあるわけですが、まさに彼らはその野球の難しさに直面してくれています。正直なところ私は、今年はある程度壁にぶつかるだろう、またはぶつかって欲しいと思っていました。レベルの高いチームと当たり、チームプレイを学び、打ってよかった、抑えてうれしかったとは違う野球の真髄みたいなものを感じ取ってほしいと考えていました。そういう意味でも先日の大会の敗北や練習試合での失敗は彼らにとって良い学びとなったと思います。勝ち負けも含め野球を通じて共生や感謝の思い、多くのことをできるだけ学んでほしいと思っており、日々試行錯誤が続いています。選手たちのなかには学校にもちゃんと通うことができず、働いてグラウンドに来るという生活を余儀なくされている者もあり、せめてもグラウンドが彼らにとって学びの場になってくれればと願いながら彼らと接しています。ようやくグラウンド整備も定着し始め、日系人以上に日本の野球のあり方を理解し、吸収してくれているように思います。

平日の非日系の子どもの練習、土曜の大人チームの練習、日曜日の日本語の授業と日系・非日系の子どもの練習に加え、4月から市内の公立小学校の体育の授業を使っでの野球指導が始まりました。まずは市内の体育先生を集めてルール説明、日系社会とブラジルにおける野球の歴史などを説明し、まずは先生たちにも野球の楽しさを体感してもらうところから始めました。授業初日、子どもたちにとってはルールも知らなければテレビですら見たこともないスポーツであり、グローブやバット、ボールを見ただけでも目を輝かせていました。サッカーとバレー、カポエイラぐらいしかメジャーなスポーツがないので新しいスポーツを学校で教えることに先生方も非常に協力的でした。野球の授業を通じ、共働作業を子どもたち

に教える良い機会となっています。先生方曰く、貧しい地域の子どもたちは家庭内で親が子どもを構っている余裕がなくしつけや教育がほとんどされていないところが多いとのこと。そんな子たちが野球からスポーツとしての魅力だけでなく、プラスアルファの何かを感じてもらえれば本望です。

残り7ヶ月で私がこの地に何とか残したいのは、野球が選手たちにとって一生関わるのできるものにする事です。先述の通り、学校に行けずに働いている選手たちもいますが、学校を卒業し、就職するという道にこれから進む選手もいます。未成年の間は今のチームに所属していられますが、いつかは彼らもチームを去り、月謝を払って大人のチームに加わるか、金銭的余裕がなければ野球を辞めるか選ばなければなりません。サルバドールで野球をプレイしているすべての人に少しでも金銭的援助ができないかとイベントの企画、スポンサー契約、企業のCSR活動との連携などを日系人協会と話し合っているところです。また、日本と異なり、ブラジルでは野球が将来の仕事にはつながらないので、選手個人の夢・目標として野球選手のイメージが湧かないという問題もあります。野球選手に限らず、日本では野球に携わる仕事も多くあり、野球を一生懸命することが将来の職業にもつながります。この地域の子どもたちが将来を夢見て日々練習できる環境づくりもこの地域で野球文化を根付かせる課題の一つととらえています。来年、サルバドールから一人の選手が日本の独立リーグの球団に1ヶ月間研修生として受け入れてもらえることになりました。その1ヶ月で吸収し、感じたものをこの地に戻って還元し、いつか再び彼が日本にやってくることを願っています。そして、これを機にグラウンドの子どもたちが日本でプレイするということが夢の一つの選択肢になってくれると信じています。残り約半年、どこまで私の思い描く形が実現するか、挑戦の日々は続きます。

事務局だより

伊藤益朗

●皆様いつもジンバブエ野球会にご理解とご協力を頂きありがとうございます。この度、「東京オリンピック予選等支援の為の特別募金」をお願い致しましたところ、たくさんの方から多額のご好意を頂戴いたしましたこと、ここに心よりお礼申し上げます。

●特に今回は、東京オリンピックアフリカ予選という大きな目標としてきた大会があり、ジンバブエのみならず他のアフリカ各国で野球をしている選手たちにとって、思い出に残るかけがえのない経験になったと思います。それだけに資金不足のために棄権せざるを得なかった国の選手はさぞ残念だったろうと想像します。

●ジンバブエはアフリカ予選で3位になりましたが、東京オリンピック出場の夢は叶いませんでした。詳細は本誌の堤尚彦氏とジンバブエ助監督のジョン氏の報告をご覧ください。

●今回は、記載すべき事柄がたくさんありましたので、基本的なことのみの掲載とさせて頂き、詳細やカラー写真などはジンバブエ野球会のホームページ <https://zykai2018.jimdo.com/> をご覧頂きますようよろしくお願いいたします。また、このジンバブエの風42号も印刷版では、写真を白黒にしていますが、カラー写真入りのジンバブエの風42号をHPではご覧頂けるようにしています。

●ジンバブエ野球会では、発足以来21年にわたり、ご理解とご協力を頂いた皆さんに、半年ごとにニュースレター「ジンバブエの風」を郵送させて頂き、アフリカやジンバブエのようす、会計報告、その他催しなどをお知らせしています。その際、すでにご入金頂いた方も含めお出しする方全員に振替用紙を同封させて頂きますが、新たな年会費振込については自由

にご判断頂き、ご無理のなき範囲で一緒に末永くアフリカ野球を応援して頂ければうれしく思っています。

●ジンバブエチームの東京オリンピック予選に向けた強化策への協力として、おかやま山陽高校野球部はジンバブエから昨年(2018年)8月に続き、今年(2019年)も3月6日～22日の間、3名の投手をジンバブエから招き、練習参加をさせて下さいました。アフリカ予選に向けて大いに役立ったことと思っています。(これらはジンバブエ野球会の事業ではありません)

●ジンバブエ野球会としては、側面支援として、岡山往復と関西滞在中のお世話を致しました。3月6日、関空に着いた3選手(クリフ、フォフォ、ピカ)を岡山までJR(一部は新幹線利用)で送り届け、帰りは、3月21日に正岡康子さんが岡山から尼崎まで連れ帰って、元ジンバブエ隊員の皆さんら7名と歓迎夕食会を塚口で開きました。3選手は正岡さん宅に一泊し、翌22日夕方の便で帰国の途に就きました。

●2018年度(2018年6月1日～2019年5月31日)の会計報告(その1・その2・その3)

(その1) ジンバブエ野球会 2018年6月1日から2018年12月31日までの会計報告

＜期首(2018年6月1日)残高＞	268,416	-----	①
収入計(年会費等)	519,282	-----	②
支出計	478,422	-----	③
ZWへ送金(ZW州対抗大会宿泊支援(楠活也氏よりの寄付分))	100,000		
ZWへ持参(ZW代表合宿支援(堤氏がドル換金の上、ZWへ持参))	265,000		
国内分(ジンバブエの風40号郵送料)	22,502		
(ジンバブエの風40号印刷代)	35,640		
(夏の集い支援(事前受領していた「集い特定」の寄付分))	13,000		
(来日ジンバブエ選手関西滞在時の支援金)	42,280		
2018年12月31日時点での残高	309,276	-----	①+②-③

(その2) アフリカ予選と合宿等のための特別募金期間(2019年1月～5月末)の会計報告

＜2019.1.1.現在の残高＞	309,276	-----	①'
収入計(年会費及び特別募金等) <※1>	7,398,563	-----	②'
支出計	3,036,072	-----	③'
外国へ送金(予選前代表合宿1回目)	135,000		
(予選前代表合宿2回目等)	270,000		
(予選前代表最終合宿と予選遠征の一部)	1,000,000		
(タンザニア予選支援 <※2>)	500,000		
ZWへ持参(堤氏がZW持参の前項残金と諸費20万円)	979,744		
(堤氏がZW持参のスポーツ飲料等分)	2,799		
国内分(Zの風郵送料)	21,578		
(Zの風印刷代)	41,040		
(来日ZW3選手送迎用)	30,100		
(来日ZW3選手帰国前送迎用)	32,811		
(募金礼状はがき及び印刷代)	23,000		
(2019.5.31 現在の残高)	4,671,767	----	①' +②' -③'

(その3) ジンバブエ野球会 2018年度(2018.6.1~2019.5.31)全体の会計報告

(その1とその2の合計)

＜期首(2018年6月1日)残高＞	268,416	-----	(A)'
収入計	7,917,845	-----	(B)'
支出計	3,514,494	-----	(C)'
＜期末(2019年5月31日)残高＞	4,671,767	-----	(A)'+(B)''-(C)''



＜※1＞年会費と募金の厳密な区別がつきませんので一括としました。

＜※2＞タンザニアへの50万円は、従来のジンバブエ野球会の活動として、アフリカ予選の支援とその他活動や設備等へ支援させて頂いたものです。

(左の写真はタンザニア国立野球場に新設された打撃ケージ)

- ・今回のジンバブエチームの予選参加と事前キャンプ支援のための特別募金は、その目的のために使わせて頂きました。また、今回残りました資金(4,671,767円)は、今後のジンバブエ(及びアフリカ)の野球活動と設備費等の支援に大切に使わせて頂きます。
- ・会計監査を河西秀和氏にお願いし、2019年6月24日に承認を頂きました。

●来る8月11日(日)の夏の集いでは、「野球そして人生の交わり」と題して、関西学院中学部、高等部、啓明学院で教育に携わられた、尾崎八郎先生にお話しして頂きます。皆様是非おいで下さい。詳しくは最終面をご参照下さい。

●前回の「冬の集い」は、去る2月24日(日)に「海外生活での思い出」と題して、右柳好博さんにお話しして頂き、続いて、TV東京の「SPORTS ウォッチャー」で放映されましたビデオを参加した皆さんと一緒に視聴しました。右柳さんのお話(要約)は以下の通りでした。

就職して3年で、エンジニア会社に転籍し、78年から80年は、アルジェリアでした。首都アルジェから南へ600~700km、サソリや蛇がいるサハラ砂漠の入り口のところで、日本人2,000人、アルジェリア人10,000人の大きなプロジェクトでした。その間に約10名が亡くなりましたが、多くは交通事故やノイローゼによる自殺でした。

81年から83年は、インドネシアのボルネオ島、バリパパンでした。天狗サル、セミ、トカゲ、ワニなどがいて、漆黒の闇の中、一本の木に蛍が群がり、クリスマスツリーのような美しい光景は忘れられません。水上スキーもしました。アルジェリアとインドネシアでは自然環境が全く違っていました。

99年まではシンガポールで事務所勤務でしたので、家族全員で生活しました。第2次大戦で残虐なことがあったので特に年配の方へは配慮が必要と感じていました。海外での生活では家族同士が支え合う必要があり、絆を感じた時期でした。息子は高2でインターナショナルスクールに入り、初日帰って来た時「お父さん、何も分からへん」と言っていました。中2の娘は日本人学校に行きました。当時の職場の事務所の人たちとは今も交流しています。

2012年から2016年は、ベトナムのハノイでした。印象と違って結構寒く、10℃以下になったら学校は休みになります。夏は暑いです。当時は「ドイモイ」の頃で、バイクが多かったのですが、今は経済が成長し、車になっています。ベトナムは平均年齢が30歳と大変若い国です。仕事面では、悪しき商習慣が残っていてお金を要求されたこともあり、やりやすい所ではありませんでした。悪賢く、強暴でも、義理堅く家族思いでした。

変わった国と思ったのはリビアです。2000年頃ですので、カダフィ大佐の時代で、ガスプラントをまとめました。ミーティングや飛行機などにも秘密警察が一人入ってきます。首都トリポリの西には、古代ローマ遺跡が手つかずでいっぱい転がっています。トリポリの西、

アルジェリア国境で襲撃され、日本人 40 名が亡くなられるという悲しい事件がありました。グローバル化とは、縦割りだった国家や地域がボーダレス化の変動をする趨勢や課程を言います。この時代に、特に若い人たちには、目標をもって世界を相手に、生きて行ってほしいと思います。

そんな人への私からのアドバイスとしては次の 6 点を挙げておきます。①日本人のアイデンティティーを失わず、相手のアイデンティティーを尊重する。②相手に貢献できる喜びを知ること。③相手国の人と知り合って温かさを感じる。④自己危機管理能力を持つこと。(連絡網も作っておきたい) ⑤英語プラスもう 1 か国語をマスターしたい。⑥家族との絆を大切に。

大病・交通事故・テロなしで過ごせたのは幸運でした。私は人生の多くを海外で過ごし、世界の人々の温かい心を感じることができたことは自分の財産になっています。

●正岡茂明さんが、毎夏恒例の尼崎市「みんなのサマーセミナー2019」で講座を開かれます。ご都合のつく方のご参加をお待ちしています。

講座：『ジンバブエ野球の支援』

日時：8月4日(日) 15:20~16:10

場所：尼崎市立琴ノ浦高校、本館3階、選択教室2 尼崎市北城内47番地の1

参加：予約不要・無料 (阪神尼崎駅南東約300m)

●ブラジルの日系社会青年ボランティアの高江直哉さんは活動も軌道に乗り、次のようにおっしゃっています。①同期隊員の宮田瑠星隊員はこの9月にマナウスの少年チームを連れ日本遠征に向かいます。②今学期最後の体育の授業でクラス対抗の試合を行いました。トロフィー・メダルも準備しました。③5月、ブラジル中のJICA野球・ソフト隊員が一堂に会し、親善試合・野球教室を行いました。

●アフリカ予選に参加した国の内、以下の4ヶ国の監督が日本人でした。日本人が野球を世界に広めようと尽くされていることを知り、うれしく感じました。

ブルキナファソ 出合祐太監督 ウガンダ 田中勝久監督

タンザニア 岩崎広貴監督 ジンバブエ 堤 尚彦監督

●私、伊藤も以前、11年間コーチをさせて頂いた身体障害者野球チーム、神戸コスモスの前監督で、前全日本身体障害者野球連盟理事長の岩崎廣司さん(69歳)が、3月14日、すい臓がんのため亡くなられました。それまで関学と野球のことしか知らなかった私にとって、岩崎さんに出会えたことで人生の視野を広げて頂いたと、今も感謝しています。ある場で初めてご一緒した時に気さくに声をかけて頂き、コスモスの練習見学に誘って頂きました。メンバーのことを「3度の飯より野球が好きで連中」と公言されていた言葉が忘れられません。1981年に神戸コスモスを設立。93年に同連盟を創設し、日本代表監督として世界大会で3度優勝されました。(タンザニア監督の岩崎広貴さんとお名前が似ていますが別人です)

2018年6月1日~2019年5月31日にご入金頂いた下記皆様に感謝します。(敬称略)

お名前はたまかな「五十音順」に記載しています。しかし、お名前の読み方が分からない方が多数おられますため、正しい場所に収まっていない方がおられるかも知れません。何卒ご容赦のほど、よろしくお願い致します。

青木尚龍 安斎健太郎 赤澤浩千 有本捷也 有本大世 安藤勝彦 赤司淑子 青山学院大学硬式野球部 青柳博文
網野勝史・裕美子 足利充啓 東 佑樹 (株)アサヒ緑健 旭丘少年野球 伊元敏幸 池田周弘 イクミタロウ
新潟大学 泉田 岩上昌由 岩崎正裕 岩崎哲士 岩田ツヨシ 今岡伸宇 一福ファイターズ 伊藤益朗・和子
稲家敏雄 稲家 優 イチマササツキ 石割 徹 石川貴浩 岩崎正則・早苗 岩崎スポーツ・岩崎正裕 伊東 敬
今井水出 今井のぶと・あきこ 猪俣龍己 市川文雄 石崎 貴 伊原良子 井上裕通 伊東英治 五十田安夫
市川 顕 今井俊行 石橋忠雄 伊東 登 池上宏美 飯尾明郎 井上久雄 以倉 章 伊藤卓朗 岩間美保

石原豊一 茨 多加雅 吾妻 智 印藤勝弘 石森四郎 池田一晴 岩丸達郎 井草康久 内田美佐 植松幸男
 打谷昌司 植田一久 梅崎道夫 右柳好博 上田博司 上村保一 上村卓也 宇都宮年夫 上野秀国 上野 貢
 江藤誠一 江野村和哉 奥 卓真 岡崎勝宏 織田直樹 オオクボタカトモ オオナミトモヒロ 岡崎誠吾・朝絵
 岡田陽子 落司量則 岡崎創史 小原照美 岡田和久 奥田貞美 尾崎八郎 岡田昌尚 岡本征夫 岡田義昭
 岡田淳芳 小澤 託 大海吾郎 大熊 勲 尾崎ヤスコ 岡山中高指導者懇親会 岡山県高校野球監督会 大竹 榮
 おかやま山陽高校教職員・生徒駅前募金 尾崎かおり おかやま山陽高指導者一同(7名) 大前健治 大森学園高校野球部
 大木場富士夫 小田 恵
 加茂周治 清武信彦 春日英樹 片岡成夫 木村俊郎 神川ビッグマンボウ 景山高好 柄子真弓 加藤雅子
 川上貴司 スポーツ岡山・金田健治 片山智教 川田 透 軽澤政美 金織久恵 金丸明美 川島理雄 片桐ユキヒロ
 スポーツ岡山・金田健治 川田 友 川辺 治 加藤サミ 河島 孝 景山高好 柄谷 桂 神原 誠・生子 加藤英樹
 川原 晃 岸間隆弘 岸間千鶴子 切貫可一 木戸孝太郎・朝子・孝成・純・春馬 北村俊介 喜多川宜則 岸間千鶴子
 木内祥晴 金 守良 木村寿一 木下文男 漁府輝羽 黒川彰夫 (株)クニサダ 熊谷康夫・田中汰遥 楠 活也
 久山勇雄 倉敷市立黒崎中学校 小山里江 駒形一彦 河野博文 児島敏夫 近藤高志 小林義男・貴美子 高野崇弘
 小山誠一 小島 剛 都立小山台高校硬式野球部 五島 浩 児山恵子 小原敬子 小寺信吾 後藤直佳子 金光道晴
 坂田陽右 坂田博子 斎藤貴志 坂本義徳 坂田 淳 坂田健一 桜庭雄美 澤田玲子 阪口嘉成 阪本悦治
 坂本一夫 讃岐紙工(株) 佐野勝章 斎藤 豊 佐々木順子 才本聖一 郷内中学校生徒会 坂元淑子 澤田美和
 庄内スポーツ少年団ソフトボール部 (株)G-プラント シマダトシオ 四福少年野球 都立昭和高校硬式野球部
 嶋田岳寿 芝川又美 白井 巧 重松るみ 都立城東高校OB 学校法人順正学園 首藤元子 杉本祥子 杉本加容子
 関口清治 成基設計(株) 妹尾佳士
 高山忠之 田邊雅通 高橋恭三 竹下千あき 辰己秀盛 武田夏美 TIA 肥後正史 立川友哉 竹田昌弘 高田和弘
 大阪商大高 高橋監督 谷山幸夫 田村正志 竹原 良 多川良俊 丹 龍太郎 高谷晋介 高木スポーツ 高江美香
 立澤芳郎 田居秀雄 田幡二三夫 田村豪浩 (株)田村コピー 高林敏子 谷村友一 丹 龍太郎 高橋マサヒロ
 茶谷雅夫 地守ひづる 土谷裕之 蔦 嘉一郎 堤尚彦・由貴子 堤まさる 津田健史 津地 要 連島少年野球
 寺本 徹 鳥取商高硬式野球部 時政英之 鳥 亭 徳永篤史 東條恵司 富澤一夫 鳥山雄一 富山侑亮
 東京都高野連 東矢高明
 難波 緑 永野裕香 中田恭二 永山篤志 成川昭治・正子 中村康人 鍋島育子 中江鈴子 中村信太郎 中原かおる
 名取鉄朗 長沼加代子 中川正昭 南部 崇 永田和恵 中野 明 二福ファイターズ 西浦少年野球 西村正則
 ニシダヨシコ・トンボダマ 西村 勇 西沢エイイチ 西口 勲 沼野耕三郎 野田太一 野下美佳 野口満行・芳子
 野口善行・彩子 野口恵美子
 原田信二 原田 亮 長谷川芳一 橋田たか子 鉢呂哲也 ハラノマユミ 原田タダヒコ 樋口恵三 平山仁規
 兵庫工業高職員生徒保護者 日高貴文 平木 覚 広岡正信 広岡義之 平岡孝司 菱川浩成 平岡徹朗 古川 明
 福田健治 藤原洋造 藤井道雄 藤井皓哉 福留昌也 藤下美穂子 カーライフ・フジワラ 古市滋久 藤原靖明
 藤本幸治 (株)プラナ 藤野 真 藤本正晴 本荘雅章 堀川佳津美 本間美夜子
 正岡茂明 正岡康子 前 節子 松原敏文 丸谷 健 松本裕一 前田京子 前島宗甫 松田祐太郎 松本廣年
 牧野彰介 前島信平 誠産業(株) 松井 等 水島スポーツ少年野球連盟 三谷大介 三田実幸 水島 洋 三瀬和義
 水島スラッガー 三宅義之 三浦シュン (有)ミニコンクリートポンプ 三宅幸良 水江久代 峯村しげ子 三田喜英
 宮田典計 三宅伴宜 村上英樹 明秀日立野球部 百武和義 森脇一宏 森 浩二 森田隆文 諸熊伸亮 森 文彦
 森 要 森迫辰夫 本池義人 毛利泰子 守都未来 森 宏
 八木一真 山本健一 山田雅弘 八木米太郎 矢崎智之 山田能健 山田恒治 山本 肇 山田雅子 山田道子
 山本智永 矢口泰隆 八幡克也 山中雅義 矢野 亮 山田信雄 山本 健 山田実千子 山西清高 山下雅之
 山田静夫 祐東孝好 吉木直也 米田 満 義平幾雄 吉田貞比古 吉岡 勉 吉田香織 吉岡由三江
 渡邊慶子 和田昭彦 渡辺 博 和田有二 和田勝行 MUSEKIWACHIDZIVA TUMCE CHIDZIVA
 練習試合の対戦相手や審判さんなど有志 Z Y 会有志 夏・冬の集い黒字分

ジンバブエ野球会 夏の集い

「野球そして人生の交わり」

お話 学校法人啓明学院相談役 尾崎八郎さん

尼崎の小学校から関西学院中学部に入学した12歳の私、伊藤は、中学部長の矢内正一先生の凛としたお姿と言葉に衝撃を受け、自分が新しい世界に入ったように感じました。尾崎八郎先生は私が中2の時に新任で来られ、日本史を学びました。歴史音痴の私には苦手な授業でしたが、出来事を覚えるだけでなく、ことのつながりを見ていくという考え方があることは学んだ気がしています。私にとっては、その2年後に私の卒業と同時に矢内先生が定年退職された後の新しい中学部を育てて頂いた先生でした。その後、兄弟校となった啓明学院を現在まで築いて来られました。

皆様お誘い合わせの上、是非おいでください。

と き：令和元年8月11日(日) 午後1時30分受付開始
2時00分 尾崎八郎さん「野球そして人生の交わり」
4時30分 閉会

と ころ：塚口さんさんタウン2番館(2F)住宅集会室

(管理事務所の隣、年金相談所の前20m)

管理事務所のTEL06-6429-5327

塚口さんさんタウン2番館は、阪急塚口駅南改札から約80m、駅前ロータリーを挟んで正面に見える14階建ビル。ビル東側にあるエレベーターか階段が便利です。

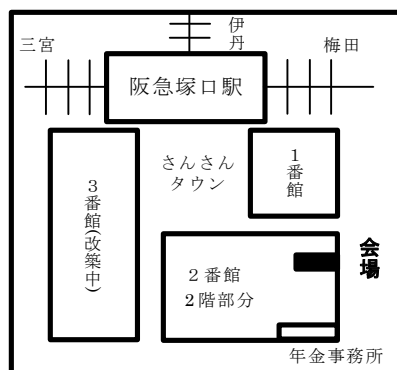
<注意> 2番館の2階ですが、もし1番館の2階から繋がっている回廊デッキから2番館ビルに入ると、そこは2番館の3階になりますので、1フロア降りて下さい。

地下駐車場(有料)は2番館東面から入って下さい。

かいひ：(お茶代・会場費等として)500円

準備の都合上(当日参加も歓迎ですが)、8月9日迄に下記へお申し込み頂けると助かります。

事務局伊藤 〒661-0012 尼崎市南塚口町2-1-2-510 TEL06-6427-4950 zykai@hkg.odn.ne.jp



「ジンバブエ野球会」入会、継続のお願い

同会の目的：アフリカを中心に野球振興と野球交流をゆったり応援する。

活 動：①年会費及び寄付から必要経費を差し引いて、元ジンバブエ在住の村井洋介さんらの意見を参考にして、目的のために役立てる。

②参加者、その他に年1～2回、ニュースレターを送り、アフリカやジンバブエのようす、会計報告、その他催しなどを知らせる。

趣旨にご賛同頂ける方は別紙郵便振替用紙でのご送金にてお申し込みください。

郵便振替口座：00930-2-126157 ジンバブエ野球会

年会費：1口 3000円

事務局：661-0012 尼崎市南塚口町2-1-2-510 伊藤益朗 TEL06-6427-4950

<https://zykai2018.jimdo.com/> E-mail: zykai@gmail.com 又は zykai@hkg.odn.ne.jp(従来通り)